



いただきます！

平成29年 1月号
杉並区立杉並第四小学校
栄養士 服部 悦子

あけましておめでとうございます



あたらし いちねん はじ ことし ちから あ あんしん あんぜん
新しい一年が始まりました。今年も力を合わせて、安心・安全でおいしい
きゅうしよくづく とく ねが
給食作りに取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4年生・食育の出前授業を行いました



がつ にち こうじ ねん くみ こうじ ねん くみ しょくいく てまえじゅぎょう おこな
12月2日(金)、3・4校時に4年2組、5・6校時に4年1組で、食育の出前授業を行
ました。明治の細川先生をゲストティーチャーにお招きして、「ミルク教室・骨って大切」
と「わくわく体験・生クリームからバターをつくる」というテーマで教えていただきまし
た。ミルク教室では、「骨の役割」「骨とカルシウム」「骨ができるのは小中学生のとき」
「丈夫な骨を作るには何が必要？」という学習をしました。わくわく体験では、容器に入
れた生クリームを振って、バターを作りました。作ったバターは、クラッカーにのせて試食
しました。「おいしい！」と子どもたちは大喜びでした。



もりだくさんの内容でしたが、みんな真剣に聞いていました。



容器に入れた生クリームを3分間振り続
けます。3分って意外に長い！



3分ではまだバターにはなりません。さらに、
振って、振って！



ふわふわでやわらかい
バターの完成です。

全国学校給食週間

1月24日～30日

戦後、ララ（アジア救済委員会）の支援物資により、昭和21年12月24日に給食が再開されました。ちょうど冬休みに入るので、一ヶ月後の1月24日を学校給食の記念日とし、24日からの一週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。杉四小でも、給食にまつわる、様々なメニューをとり入れています。



杉並区の給食の歴史

～給食と食器の変遷～

その① 昭和20年代～40年代

【昭和20年代～】

昭和22年に区内の小学校で給食が開始されました。ユニセフから寄贈された脱脂粉乳をお湯で溶かしたミルクが、コッペパンやみそ汁と共に提供されました。昭和29年には小学校全校で完全給食（パン・おかず・脱脂粉乳）が実施されるようになりました。



献立) 鮭のみそ汁、脱脂粉乳

アルマイト製
椀
ミルクカップ
レンゲ



献立) コッペパン、脱脂粉乳

アルマイト製
皿
ミルクカップ

【昭和30年代～】

パンを主食に、おかずが提供されるようになりました。



献立) コッペパン、脱脂粉乳、
あじフライ、せんきゃべツ

アルマイト製
椀・皿
ミルクカップ
先割れスプーン



献立) 揚げパン、豚汁、ゆで卵

ポリプロピレン
製椀・皿
先割れスプーン

【昭和40年代～】

脱脂粉乳の代わりに、牛乳が提供されるようになりました。

昭和43年には、中学校全校で完全給食が実施されるようになりました。



献立) ぶどうパン、牛乳、鯨の竜田揚げ
舟きゅう、粉ふきいも

ポリプロピレン
製皿・椀
先割れスプーン



献立) ソフト麺カレーソース、牛乳
小コッペ、りんご

ポリプロピレン
製皿・椀
先割れスプーン

「平成27年度 杉並区の学校給食」より抜粋